総合的な学習の時間部会

＜県研究主題＞
生徒一人ひとりの生きる力をはぐくむ指導計画及び指導の工夫・改善

提案１　　提案者　矢崎　祐華（湘南地区）

＜研究主題＞　探究活動の課程におけるまとめ・表現の工夫

１　提案内容

課題解決や探究活動に主体的、協同的に取り組む態度の育成を柱に取り組んでいる。具体的に福祉体験学習・鎌倉探索(１年)、職場体験学習・自然学習(２年)、進路学習・修学旅行(３年)の体験学習を通して探究活動をしている。本校生徒の実態を考慮し、学校全体で各教科等での「言語活動」を意識的に取り入れた授業実践を行い、テーマにおける成果と課題を発表する。

(１)　研究内容

学習形態は、１，２年生でグループ学習を行い、まとめとしてポスターセッションによる発表活動を行い、３年生で課題設定の段階から個人で研究、発表を行っている。１年生の鎌倉探索の発表について工夫している。発表する班で役割を決め、内容説明、質疑応答、補足、アピールを行っている。ポスターセッションについては、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を高めるのに効果的と言われている。

①　探究の過程について

〇課題の設定(テーマ決定)：１クラスを５，６人に分け、各担任が班をまわり、疑問を言葉にし、テーマ設定を行う。社会科で地域学習、理科で鎌倉の地層を学び、小学校でも鎌倉の地域学習を学んでいるので、生徒たちは興味や関心を持っていた。

〇情報の収集：実際に、地域の方や観光客にインタビューを行う。

〇整理・分析：収集した情報を整理し、ポスターセッションの準備を行う。

〇まとめ・表現：次の順序で発表を行っていく。

ア　本番前に、時間設定が同じのプレ発表会を２回行う。

・１回目のプレ発表で、教員や参観の生徒がアドバイスシートを記入する。プレ発表後に、そのシートを用いて、班で話し合い、調整・改善を行う。

・２回目のプレ発表を行い、１回目の発表後のアドバイスを生かし、自信が持てた等の発表者のよい変化が見られた。

イ　本番の発表会を行う。

９つのブースに分け、発表を２回行う形式で、当日の運営は学年委員が行う。

発表前にアピールを行い、聞き手が興味あるブースに行く。質問タイムを設けて、保護者も参観する形式になっている。感想を書いたシートを提出してもらう。

②　ポスターセッションの取組を通して

・保護者にはアンケートで、「みんな頑張っていたが、声が届かなかった。」という意見が多く、生徒は授業の中でも声の大きさなどを意識するようになった。

・「聞き手に興味を持ってもらうにはどうすればよいか。」「わかりやすい発表とは何か。」などの疑問から、クイズやアンケートを効果的に取り入れる等の表現の工夫が見られた。

・アドバイスシートを積極的に受け入れる姿勢があり、さらに自分の調べたことを深く考えようとする思考の深まりも見られた。

(２)　成果と課題

教科の横断的な取組として、国語科、社会科、理科、英語科との関わりが特に見られた。例として、英語科で外国人へインタビューとアンケート調査を行う、福祉体験学習を国語科の作文で書く、２年時のキャンプのまとめ学習で家紋を調べるなどと、広がりを見せていた。

２年生の職場体験学習の発表もポスターセッションの形式をとっているが、学年が上がるにつれ、内容に厚みが増し、表現力が向上するのは、言語活動を重視した各教科の指導の成果である。新たな課題を見つけ、今回の学びを次の学びにつなげる生徒もいた。

課題としては「次の学年」や「進路決定」にどうつなげるかになっている。

(３)　質疑

Q：プレ発表の形式は、どのようになっているか。

→A：同じ発表時間帯の班で４つの部屋に分け、当日と同じ形式で行っている。

Q：プレ発表での変化の様子を知りたい。

→A：内容を覚えて、顔を上げて説明するようになった。意味のないクイズが省かれるなど、内容が精選された。

Q：探究活動での教員の格差が出ないように、どのようにして共通理解をもっているか。

→A：学年の教員が協力的で、ベテランの教員が普段よりアドバイスをしている。

２　協議内容「 探究活動の課程におけるまとめ・表現の工夫」

・スキルのみでなく内容も、スパイラル的に進めていかなくてはいけない。ポスターセッションをよりよくために、教員からはよいスキルや内容を取り入れるようにアドバイスしている。

・保護者が来られ、他学年の生徒が見に来ると発表がよりよくなるのではないか。プレ発表は、改善につながるよい方法と思われ、伝えたいものは、口頭で伝える方法があるのではないか。

・３年生が日常生活につなげようと意識し、１，２年生は３年の発表を見て学んでいる。

３　助言・まとめ

探究的な学習がキーワードで、発表のスキルに目がいってしまう。課題の設定が大きな要素であるのではないかと感じた。

多くの時間をかけ、発表活動に力を入れてスパイラルな学びを追究していることは、非常によいと考えられる。アドバイスシートもうまく取り入れ、プレ発表の指導する教員をローテーションすれば、複数の教員の指導が入り、変容を教員が見ていることが伝わってくるのではないか。

それぞれの班が個性を取り入れ、生き生きと発表し、参加している他の生徒とコミュニケーションをしながら行っていることがよい。聞き手が参加する姿勢も大切である。よい質問を返し、自分がやってきた課題解決学習と比較しながら交流している。

問題解決学習の過程の質を高めていくために、教科の連携を深く取り組んでいる。他者との協同する活動、言語活動の充実に学校全体で取り組んでいる。総合的な学習活動で学んだことが、各教科にフィードバックされることが素晴らしいと思われる。

学習活動の過程が、３年間を通じてスパイラルに繰り返される計画を立てていただきたい。

提案２　　提案者　松本　みどり（川崎市立稲田中学校）

＜研究主題＞
探究的な学習としての充実
～　思考を深める課題の設定、まとめ・表現の工夫　～

１　提案内容

川崎市立稲田中学校では、総合的な学習の時間の３年間の全体計画として、
１学年「地域を学ぶ・地域課題に気づく」（地域・社会を支える方々の地域への思いを知る）
２学年「地域で学ぶ・地域での役割を学ぶ」（地域・社会を支える仕組みや役割を学ぶ）
３学年「地域に学ぶ・将来の生き方を考える」（地域や社会での役割を学び、自己実現と自らの社会貢献について考える）をテーマとしている。

それに応じて、１年では地域の方々を招いての発表会、２年では職場体験活動、３年では修学旅行、進路体験学習を主な学習活動としている。今回は、その２年の職場体験学習の取り組みを中心に提案を行っている。

今回は特に総合的な学習の時間における「課題設定」の工夫について重点的に報告している。

（１）２年地域職場体験活動の取り組み（目標）

職場体験学習を通して、社会の仕組みや一人ひとりの社会における役割に気付き、
より良い社会形成のために、自分の将来の生き方について具体的な指標を見い出そうとする。

①　オリエンテーション・情報の収集　　②働く意義・学ぶ意義を理解する
③職業のイメージを膨らませ、課題を設定する
④情報の収集・インタビューの内容を考える　⑤職場体験学習
⑥整理分析・職場体験の振り返り　　⑦まとめ・表現　一枚ポートフォリオの作成

（２）探究的な学習としての充実・工夫内容（学習活動の見直し）

①適切な課題設定のための工夫
ア・情報の収集　・ＤＶＤ「あしたをつかめ平成若者仕事図鑑」視聴等
イ・既存の知識を引き出す手立て　・毎日新聞社　記者派遣制度の活用等

●課題設定については、「産婦人科医院」、「消防署」へ職場訪問する生徒の２例を挙げ、指導の工夫により、よりよい課題設定が行われた例が具体的に挙げられている。
その中で今回のテーマである、総合学習の課題設定の難しさを克服するきっかけとなる取組が報告されている。

②まとめ・表現のための工夫
ア・報告書の作成　　・Ｙチャートの活用　　・一枚ポートフォリオ

２　協議内容

（１）質疑応答

Ｑ、総合的な学習の時間担当が、具体的に指導を進める上で、他の職員との共通理解や指導、協力体制などはどのようになっているのか？

Ａ、最初に学年会等で、総合的な学習の時間の指導の共通理解をしっかりと行い、職員の入れ替わりなどにも対応していく。また、細かい資料についても、使用するときに、適宜学年に提

案して、学年職員もしっかりと理解したうえで総合的な学習の時間の指導を進めている。そのため係だけ苦労することはあまりない。

Q、今回の提案の中心である「課題設定の工夫」の中で、２０～３０以上のグループで行うと、数が多いため一人一人の生徒にきめ細かい指導が可能なのか？

A、稲田中では、グループ単位での活動になっている。全体には本日の課題をしっかりと理解させ、その時間総合で行う内容をしっかりと理解させる。また、自分たちでできるグループは、事前指導を行いグループリーダーが進められるように指導をする。また、遅れがちなグループは、直接細かく指導して対応する。また、よいグループに中間発表させることで、指導を行うこともある。

（２）参加者の感想

・課題設定の時、指導する側が「生徒の育てたい力」まで見通して指導している。
・生徒の主体性の育成と意欲的な取り組みに向けて、適切な指導が行われている。

（３）グループ協議

グループに分かれ、各校での課題設定の工夫等を、お互いの情報交換を含め話しあった。その後、話し合いの様子をいくつかのグループで発表し、共通理解を図った。

協議の柱に即したテーマ　「探究的な学習を進めるための、年間を見通した取組」

・３年間を見通したテーマや計画が大事である。取組を進めていくうえで、資料の継続をどうしていくか考える必要がある。小学校とのつながりや地域をどのように生かしていくかを考え、担当の先生の負担にならないようにし、教員の格差が出ないようにするのが課題である。
・郷土愛を育むための取組や地域の特性による問題点などが話題の中心になった。新しい商品の開発など生徒の興味に沿った取組も話題になり、地域の教育力を活用するための課題が出た。
・課題の設定の大切さと難しさが話題になり、人と時間の話題からチームの大切さがあがった。また、学級での総合で小回りをきかせる考え方があるのではないか。
・やり方は課題の一部で、教員が生徒をどのように育てたいか、学ばせたいことは何かという芯が一本あれば、どのように展開させるかである。教員も地域に出て行く必要がある。
・総合的な学習の時間での教える内容が多く、負担が多い。総合の専科の教員が必要でないか。専門家や地域の力を借りるとよいのでは。
・人と時間がキーワードとなる。チームで動くことが多くなるので、連携していくためには時間が必要である。
・教員の共通理解のためにも時間の確保が大切である。

３　まとめ

・今回の取り組みは、県の総合の研究主題に合致している。
また市でも毎年、総合の指導事例集を発行するなど、すばらしい活動報告がなされている。
・今回の総合的な学習の時間の取組の中で、様々な指導の工夫が行われている。その「様々な仕掛け」により、生徒のたくさんの「気づき」や「理解の深まり」が見られる。
・総合の仕掛け方の工夫が、自分の専門教科、道徳、学活などの工夫とリンクしていけば、さらによい学習指導ができると考えられる。